

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 平成30年9月21日から平成31年2月13日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B16021、B18014、050482	

### 2 福祉サービス事業者情報（平成30年12月現在）

事業所名： (施設名) 長野市中央保育園	種別： 保育所
代表者氏名： (管理者氏名) 市長 加藤 久雄 保育・幼稚園課長 中澤 和彦	定員（利用人数）： 98名（84名）
設置主体： 長野市	開設（指定）年月日： 昭和29年6月10日
経営主体： 長野市	
所在地：〒388-8006 長野県長野市篠ノ井御幣川284の2番地	
電話番号： 026-292-0342	FAX番号： 026-292-0342
ホームページアドレス： <a href="http://www.city.nagano.nagano.jp/">http://www.city.nagano.nagano.jp/</a>	
職員数	常勤職員： 18名 非常勤職員： 10名
専門職員	(専門職の名称) 名
	・園長 1名 ・給食調理員 3名
	・保育主任 1名
	・保育士 23名
施設・設備 の概要	(設備等)
	(屋外遊具)
	・乳児室 … 2室 ・ほふく室… 1室 ・保育室 … 5室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 4室
	・鉄棒 ・滑り台 ・登り棒

### 3 理念・基本方針

<p>長野市が目指す子どもの姿 (長野市乳幼児期の教育・保育の指針より)</p> <p><b>かがやく笑顔で げんきに遊ぶ しなのキッズ</b></p> <p>安心できる環境の中で、子どもが自分に自信を持ち、遊びや生活を通して 友だち等の人間関係を築いていく生き生きとした子どもを育てます。</p>
---

## 【教育・保育の基本方針】

- 健康な心と体を育てる  
自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、健康で安全な生活を作り出す基礎を培う
- 感じて、考えて、チャレンジする力を育てる  
好奇心や探求心を持って人や物と関わり、試行錯誤しながら最後までやり通す力を育てる
- 自信を持ち、自分を好きになる教育・保育の推進  
満足感や達成感を得られる体験を通し、自信を得たり認められる嬉しさを感じることで更なる意欲へとつながる教育・保育を進める。
- 人との関わりを大事にする教育・保育の実践  
自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりして、人との関わりをもつことに喜びを感じる教育・保育の実践
- 家庭や地域との連携  
子どもの心の安定と健やかな成長のため、家庭での子育てを支え、地域における子育て・子育て支援を行います
- 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿った全体的な計画を作成し日々の教育・保育を実施します。

### ○中央保育園 保育目標

みんな仲良く 楽しい保育園

- ・よく食べよく遊ぶ子ども
- ・意欲的に行動できる子ども
- ・やさしく思いやりのある子ども

## 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当中央保育園は長野市が直接運営する28園(内休園1園)のうちの一つで、長野市南部の篠ノ井地区中心部にあり中規模園として運営されている。

当保育園は昭和29年6月、現在、園に隣接している通明小学校の東、篠ノ井太平観音の敷地内に当時の篠ノ井町の町立保育園として開設され、昭和34年5月、篠ノ井市発足とともに篠ノ井市立中央保育園に、更に、昭和41年10月、長野市、篠ノ井市など2市3町3ヶ村の合併が実現し、当保育園も長野市中央保育園となった。その後、園児数の増加に伴い、昭和52年4月には現在地に移転新築され、平成24年10月から平成25年3月の間に耐震補強外工事が実施され、内部も改修されて現在に至っている。

当保育園の近くにはJR篠ノ井駅、商店街があり、また、周辺には市役所支所、図書館、公民館、小学校、児童プラザなどもあり文教地区が形成されている。当保育園の南隣接地には平成31年の完成を目指した「篠ノ井総合市民センター」が建設されており、市役所支所や多目的ホール、音楽室、料理教室、集会室、学習室などが入る予定で、当保育園周辺の文化的な機能がさらに高まっていくものと予測される。当園のお散歩マップには神社、公園、広場などがマークされ、街場ではあるが、子どもたちが自然に親しむことも出来、天気の良い日の午前中は園庭に出て遊んだり散歩に出掛け、自然に体力を養っている。また、散歩途中で地域の人々と挨拶を交わしながら様々な社会体験や生活体験をしている。

こうした中、子ども達の多くが住む篠ノ井布施高田・御幣川・横田地区は篠ノ井地区の旧市街地

ということもあり高齢化が進み、核家族世帯が増加する傾向にあり、若い子育て世代の人口も増え一時預かり保育も増加傾向にある。

当保育園の南には多くの子どもたちが就学する長野市通明小学校がほぼ隣接しており、「長野乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅱ「育ちをつなぐ」の「幼・保・小の連携」の中の「小学校との連携の充実」に沿い、小学校と接続期カリキュラムを共同作成し、年長の子どもたちはその小学校の1年生や5年生との交流を行い、学校探検をしたり、旗拾いなどの行事に参加し、様々なふれあいの時間をもち就学に向けて期待感を膨らませている。

現在、当園には0歳児のたんぽぽ組、1歳児のこすもす組、2歳児のちゅうりっぷ組、3歳児・4歳児混合のばら組・ゆり組、5歳児のさくら組の六つのクラスがあり、それぞれの子どもの発達段階に合わせて作成された平成30年度の「全体的な計画(保育課程)」の下、「みんな仲良く たのしい保育園 よく食べよく遊ぶ子ども 意欲的に行動できる子ども やさしく思いやりのある子ども」という目標に沿い、戸外遊びなどを通しての健康な体づくり、小学校との連携、近隣2園(子供の園保育園・たんぽぽ保育園)との3園交流等に力を入れつつ、一人ひとりの子どもの発達過程を捉え、健康・人間関係・環境・言葉・表現の五領域において子どもたちが身につける望ましい心情、意欲、態度を育むべく、全職員が子ども自らが自発的・意欲的に活動し様々な体験ができるような環境づくりに専念している。また、職員は保育実践や研修などを通じて保育の専門性を高めつつ、保護者の状況やその意向を理解・受容し、様々な機会をとらえ保護者への適切な援助もしている。

また、当園では保護者のニーズに合わせた様々なサービスを提供しており、仕事と子育ての両立等を応援するために一時預かりや延長保育、障害児保育、おひさま広場等を実施している。当保育園は一時保育の指定園となっており、保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による一時預かり保育を行い、曜日により集中することもあるが平均すると一日に5名ほど受け入れている。長時間保育は利用者が時間外保育を必要とする際に利用するサービスで朝(7:30~8:30)の利用者が20名、夕方(18:30~19:00)の利用者が1~3名となっている。障害児保育は保育を必要とする心身に障害を持つ子どもの保育を行うサービスで園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容になっており当保育園でも加配保育士が配置されている。更に、当保育園では地域の子育ての拠点としておひさま広場を5月から翌年2月までの毎週木曜日に実施しており、月平均10組ほどの未就園児と保護者が来園し園の一部を使い遊んだり、育児相談などを行っている。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標「かがやく笑顔で 元気に遊ぶ しののキッズ」及び「子ども・子育て支援事業計画 ～わくわく子育て すくすく子ども～」に沿いビジョンを明確にしており、今年度2018年度から2020年度までの中期計画として、「福祉サービス第三者評価の受審」、「運動遊びを継続的に取り入れ心も体も健康になること」等に積極的に取り組んでいる。また、すでに次の中期計画として2019年度には公開保育をすることになっている。職員は、当園の事業計画のうちの重点課題「保育内容の充実」として「地域資源と人材を生かした保育」、「異年齢保育を充実させること」、「地域の子育て支援として一時保育の受け入れを行うこととおひさま広場の充実・利用者拡大を図ること」などに共働しく取り組んでおり、「すべての子育て家庭、地域の子育てを支援します」というスローガンの実現のために、園内外の研修に参加し自己研鑽をしつつ、更に、お互いに切磋琢磨することで園全体として保育の質の向上を図っている。

## 5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今度が初めて
---------------	--------

## 6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点
1) 園庭や市街地の自然を活かした戸外での活動 当保育園は乗降客の多いJR篠ノ井駅前から東に延びる商店街に近く、また、南に延びる県道一本東に入った通りに面しており、周りには市役所篠ノ井支所・南部図書館、篠ノ井公民館、

通明小学校・通明子どもプラザなどがあり、古くからの市街地を形成している。多くの社会資源に恵まれていることから、園ではそれら巡り散歩したり園庭で遊んだりすることを日課とし、0歳児のたんぽぽ組から5歳児のさくら組までそれぞれに分かれ、また、時には異年齢での交流もし、戸外で活動している。

当園では園周辺の市街地の散歩マップを作成しており、子どもたちにわかりやすいイラストなどが描かれ、そこには駅や街場の中の自然豊かな公園、寺社などが一目でわかるようになっており、子どもたちが散歩で拾ってきた葉っぱや木の実などが廊下に展示され、制作活動用の材料として使われ、自然の不思議さやおもしろさを感じ、多くの興味や関心を抱かせている。

当園の2020年度までの中期計画では「運動遊びを継続的に取り入れ心も体も健康になる」と掲げ、また、今年度事業計画の重点課題の「保育内容の充実」にも「健康な体づくり(戸外遊びを通して)」として、市街地にある保育園ではあるが、近隣の公園や神社、商店街に散歩に出掛け、地域資源としての図書館・公民館を活用した「読み聞かせ・読み語り講座」などにも子どもたちが出かけている。また、年長の子どもたちの発想を生かし、「忍者」というテーマを設け、篠ノ井地区の西側にある茶臼山に住む「サスケ」というキャラクターからのメッセージを行事に合わせて応援の手紙などを発信し、「手裏剣名人!」として遊びなどにも取り入れている。

当園の園庭は2ヶ所に分かれているので、滑り台、上り棒、砂場、テーブル等の遊具で遊ぶ場所と遊具を置かず鬼ごっこ・ボール遊びなど、体を十分に動かして遊ぶ場所とを分けて戸外での遊びを安全に楽しめるようにしており、異年齢ごとに交代で使用することで連携を取り遊んでいる。

園庭の脇には畑があり、子どもたちが作った段ボール堆肥を混ぜた土づくりから野菜作り(さつま芋、玉ねぎ、きゅうり、トマト、ブロッコリー、赤ジソ等)、収穫までを幼児を中心に組み給食食材として使用するなど、「食」の大切さも学んでいる。花もプランターやポットで栽培し、その生長の様子も観察している。発泡スチロールを使った田んぼづくりにも挑戦し稲を植えオタマジャクシなどを観察したりメダカ、ザリガニなども飼育し、生命の尊さなどを学んでいる。

当園の園庭は市街地の中の園ということもあり、狭隘さは否めないが、それを感じさせないほどの活動で補っており、現代の子どもたちが様々な電子機器の発展で視覚優位となる中、外遊びを通じて、「匂い・質感・感触・味・色・温度・痛み・喜び・楽しさ」などの様々な感覚を養っており、職員も五感刺激のための保育計画の作成や環境づくりに能動的に取り組んでいる。

## 2) 地域に開かれた子育て支援機関としての役割

当保育園の4月の園だよりには「長野市の子どもの姿」、「教育・保育の基本方針」のほかに「中央保育園保育方針」として「元気いっぱい 笑顔いっぱい」をスローガンに掲げ、三つの方針を示しており、その中の一つに「子育て支援機関としての保育園の役割を果たします」とし、職員が一致協力し実践に移している。

当保育園は「一時保育指定園」として要望に応じて未就園児を一時的に預かる保育をしており、一時預かり専用の保育室があり、専任保育士が対応している。保護者の就労、職業訓練、求職活動、就学等により、断続的に保育が必要な場合や保護者の疾病、災害、事故、出産、介護、冠婚葬祭等社会的にやむを得ない理由の場合はそれぞれ概ね週3日を限度とし、また、保護者の育児に伴う心理的又は肉体的負担解消、リフレッシュ、学校行事等の場合は原則週1日利用できるようになっている。

また、当保育園でも他の公立保育園と同様、「おひさま広場」を毎週木曜日(5月から翌年2月まで)に開き、地域の未就園児と保護者を対象として園の一部を開放して遊びの場の提供、育児相談などの子育て支援をし、「入園に向けて園の雰囲気を知りたい」、「友達の輪を広げたい」、「大勢のお友達と遊ばせる機会がほしい」などの要望に応じている。

更に、継続し実施している近隣の2保育園との交流や図書館・公民館主催の「読み聞かせ・読み語り講座」などにも参加し、「絵本セミナー」や「父と子のふれあい事業～親子で遊ぼう」、「保健セミナー」なども開催している。地域内にある障害児通所支援事業所や児童発達支援センターとも連携を取り、園の子どもたちも障害を持つ子どもたちと定期的に、また、自然にふれあい、子どもたちが将来に向けてノーマライゼーションという考えに馴染むようにもしている。

保育所の役割として「地域の子育て家庭に対する支援」等が保育所保育指針にも上げられており、保育園側から積極的に情報を提供していく必要性があり、少子化・核家族化の進行とともに

地域住民のつながりの希薄化が進む中、保育園は子育て文化の発信拠点として、地域の人びとの関わりによって子どもの育ちを支え、社会全体で子どもを豊かに育てる環境づくりを進めていく役割を有している。当保育園はその役割を十分担っている。

### 3) 3 園での交流と異年齢保育

当保育園では年長児のさくら組を主に近隣の「子供の園保育園」や「たんぼぼ保育園」の子どもたちと年 5 回交流しており、それぞれの園に相互に出向き、泥んこ遊びや運動会ごっこ、わらべ歌を唄う等で交流し、消防署の見学も一緒に行っている。3 園の子どもたちの多くは卒園後、通明小学校へ就学する予定になっており、小学校への接続期という中で、友達と共通の目的に向かってやり遂げ喜びを感じたり、相手に自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたり、友達の良いところに気付くなど、交流する中でお互いの絆を深め合っている。

また、当園では幼児の 3・4 歳児の混合でのクラス編成を行っておりばら組とゆり組の二つのクラスがあり、異年齢児との交流を遊びや行事として保育計画に組み込んでいる。年長児も年中までは異年齢クラスの経験をしているので、日常生活の中で下の子への思いやりが生まれ、下の子も上の子の真似をしてやってみようとする気持ちが見られるようになり、自信と互いを思いやり尊重する心が日頃から育っている。

子どもが友達の様子を観察し模倣したり、一緒に遊ぶ喜びを味わうことは社会性の発達を促し、ひいてはより豊かな人間関係へとつながっていくと言われ、また、子ども同士で遊ぶ体験を重ねることにより、創造力を発揮しながら長時間にわたって組織的な遊びを展開していくようになるとも言われている。

当保育園の全体的な計画(保育課程)の中の五領域にも他の公立保育園同様、「人間関係」として 1 歳以上にはそれぞれの年齢に応じた明確な保育内容が示されており、それぞれの年齢の仕上げの時期に入るこの時期、保育園全体で子ども主体の保育に取り組んできた成果として、各年齢に応じた情緒の安定(落ち着き)を感じることができた。

### 4) 研修の充実と職員間の意思統一

市の保育理念や教育・保育の基本方針、当保育園の目標を踏まえた平成 30 年度の事業計画があり、園全体で重点課題を決め、職員が皆同じ方向を向いて協働している。

当園の幾つかの重点課題の中の一つとして「職員の資質の向上」が掲げられており、「外部研修の職員参加を積極的に行う」、「経験年数や職名に応じた研修計画を立て、実施する」とし、園の方針として外部研修等へ積極的に参加できる雰囲気が出来上がっており、受講者が研修で体験・習得した内容を職員会で発表する場を設け、未受講者も含め全員で共有することがルール化されている。

また、市公立保育園としての研修体系があり、一般研修、派遣研修、職場外研修に区分され、新人職員研修はもちろん、2 年目・5 年目・10 年目研修、保育士・主任・園長研修、未満児・障害児研修、給食部会・看護師会研修、育休あけ研修等、職種、経験、習熟度等に合わせた研修が公立保育園全体として実施されており当保育園でも該当する研修に職員が参加している。

園内でも年度の職場研修実施計画に沿って研修が実施されており、KJ 法を活用し自由にアイデアを出し合うブレインストーミングなどが行われ、全職員が参加しやすいようになっている。また、市の保育士部会交流グループ発表に向けた園内研修として、「わらべ歌・手遊びに係るあそび」、「表現遊び・楽器遊び」、「自然遊び・ネイチャーゲーム」等、五つのグループに分かれ、職員同士の横展開としての研修で効果を高め、モチベーションアップも図っている。

職員一人ひとりの自己啓発意欲が高く、それぞれしっかりとした目的意識を有しており、職員の切磋琢磨しようという意識が職場全体にあり、園長、主任、主査と職員個々の間に課題についての意思統一が図られ改善へと繋げている。

更に、子育て経験のある職員が体得した知識や技術、気持ち等を未経験職員に伝えることもあり、職員個々が自らの立場や他の職員の立場を良く理解し、職員同士の信頼関係とともに、自らの役割を十分果たしており、それぞれの知識・技術の共有化も図られ組織として機能している。

園の方針がしっかりと浸透しており、全職員が自分のものとしてしっかり受け止め、園全体の保育の質の向上を図るため、保育の内容や方法に関して職員の意思統一をし成果につなげている。

## ◇特に改善する必要があると思う点

### 1) 施設の整備

当保育園の園舎は42年前の昭和52年に建設され、平成25年に耐震補強工事もし改装もされているが老朽化の目立つ箇所もある。そうした中、職員は工夫をしながら保育に取り組んでいる。

テラス型廊下は直接風雨にさらされることもあるので、防風シートを取り付け、寒さ対策を行っている。また、幼児クラスが利用するトイレは一ヶ所であるが、2歳児も利用することから着替え場所のスペースを確保しマットを敷き、トイレのドアも一ヶ所取り外し不安にならないよう配慮している。更に、トイレ出入口にも防風シートを取り付け床面には動線を印し、幼児の衝突を避け、安全に過ごす工夫もしている。職員が市の公立保育園としての「保育環境マニュアル」を基に快適に過ごせるように日ごろから配慮していることもあり保育室内も整理整頓が行き届いている。

保育の環境には子どもや保育士等の人的な環境、施設や遊具などの物的環境、更に、自然や社会の事象などがあるといわれており、こうした人、物、場などが相互に関連し合い子どもたちの豊かな生活に繋がるものと思われる。

今後、職員の創意と工夫だけでは補えない生活環境の不便さが出てくることも考えられ、所管部署との認識の共有と対応が必要な時期に差しかかっているのではないかとと思われる。

子どもの活動が豊かに展開されるように環境を整え、特に、保健的環境や安全面での整備について、園単独では難しいと思われる箇所もあるので関係部署と相談しながら計画的に取り組まれていくことを期待したい。

### 2) 駐車場の確保

現在保育園南の隣接地では「篠ノ井市民総合センター」が建設中で、大規模な工事が行われ、工事車両も行き交うという中で、工事関係者の協力や保護者の理解を得ながら、安全を第一に保育が行われている。市街地の中にある保育園であるため敷地にも限りがあり、今は特に工事の関係で子どもの送迎のための駐車場が遠く、保護者に不便をかけている。

立地面で駐車場の確保が難しいことは十分に理解できるが、現在使用している南部図書館南の駐車場所は同じ距離でも雨や雪の日には子どもや保護者にとっては遠く感じることもあり、保育参加やクラス懇談会等の行事に出席するために保護者が集中することから駐車場の確保も難しいこともある。また、送迎時の時間帯も保護者と職員の信頼関係を作るには子どもの様子を伝える時間が必要となり、ゆっくり止めることができないことから十分な会話には程遠い状況になってしまうのではないかとと思われる。

JR 篠ノ井駅付近に車を止め、電車に乗り換え長野市中心市街地まで通う保護者や篠ノ井地区に勤務する保護者もおり、いずれも車で送迎が不可欠で、働きながら子育てをしている保護者にとっては通勤途上という点から利便性があり、当保育園を最適な園として選択をされているのではないかとと思われる。こうした保護者には送迎の時間も一日の生活の中でのウェイトが高いのではないかとと思われる、少しでも短縮し、時間の負担を軽減する必要があるのではないかとと思われる。

保護者からの要望もあり、工事が終わり次第、少しでも不便さが解消されることを期待したい。

## 7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

## 8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

## 9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（平成31年 2月12日記載）

第三者評価を受審させていただき有難うございました。

今回の受審では職員自身がマニュアル等を見直したり、園内研修で深めたりしていくことで共通理解ができ、保育を見直す良いきっかけになりました。園内環境についても、職員同士が意見を出し合い、見直し改善を進める事ができました。職員の意識の向上・保育の質の向上に繋がったように思います。

良く評価していただいた事につきましては、今後も継続をして更なる保育の充実に繋がるようにしていきます。

改善の必要があるとされました事、特に保育の環境につきましては、更なる改善を実施し、関係部署とも相談しながら対処していきたいと思えます。

保護者の皆様には、お忙しい中アンケートのご協力いただき有難うございました。皆様の思いが伝わってまいりました。大切に受け止めていきたいと思えます。

最後になりましたが、コスモプランニングの皆様の丁寧で温かい対応に感謝いたします。これからも、職員一丸となり前向きに保育に取り組んでまいります。